

環境と共生する地域づくりシンポジウム ～震災からの復興を目指して～

富山県南砺市 「小水力発電」

南砺市産業経済部農政課 滝 由記男課長

谷川の発電を取り組んでいく。将来は南砺市全域へ広げていきたい。桜ヶ池周辺に四つの発電可能エリアがある。二つの発電所の設置を考慮しており、1カ所が最大出力150キロワット、もう1カ所が同60キロワットを想定している。発電した電力を森林活用や農業に供給していく予定だ。



滝 由記男 氏

岩手県奥州市 「バイオマス利用設備」

奥州市市川総合支所農林商工観光課 高橋 進課長

奥州市では、林地残材を活用したバイオマスのコージェネレーション(多収)のバイオエタノール化、廃食用油を使ったバイオディーゼル(BDF)の3本柱を実施している。このうち、バイオマスコージェネレーションとBDFをミックスしたコージェネとBDF融合



高橋 進 氏

秋田県 「新エネルギー産業政策全般」

秋田県産業労働部資源エネルギー産業課 三浦 泰茂課長

秋田県は昨年5月に新エネルギー産業戦略を作成した。2020年度までに新たに風力50万キロワット、地熱10万キロワット、太陽光10万キロワットの導入を目標としている。このうち、風力発電では発電事業の立地を目標に、県内事業者の創出と県外事業者の呼び込みを行っている。メガソーラーの導入も進んでいる。



三浦 泰茂 氏

環境省と、モノづくり日本会議と連携しているNPOものづくり生命文明機構は3月17日、仙台市青葉区の東北大学青葉山キャンパスで「環境と共生する地域づくりシンポジウム」を開催し、震災からの復興を目指して、環境省と、モノづくり日本会議と連携しているNPOものづくり生命文明機構を主催する。午前10時開始で、午後1時閉会。午後は持続可能な社会システムづくりの観点から東北地方の地域づくりを考える講演やパネルディスカッションを行った。東北大学大震災から1年を機に、真の復興に向けたメッセージを東北の地から発信した。

主催 環境省 NPOものづくり生命文明機構



山形県

山形県生活環境部地球温暖化対策課 高橋 康則課長

山形県の再生可能エネルギーの導入例として、庄内町では「三大悪風」と言われる風を利用するための検討を1980年に始めた。その後、風車がこの地の景観となった。最上町はバイオマスの先駆的な取り組みをしている。医療・保険・再生可能エネルギー地産地消



高橋 康則 氏

宮城県

宮城県環境生活部環境政策課 高橋 平勝課長

東日本大震災という未曾有の大震災からの復興に向け、従来とは異なった制度設計や手法を取り入れて提案型の復興計画を策定した。復興のポイントの一つである「再生可能エネルギー」を活用したエコタウンの形成では、エネルギー性能の高い設備



高橋 平勝 氏

環境省

環境省総合環境政策局環境計画課 加藤 庸之課長

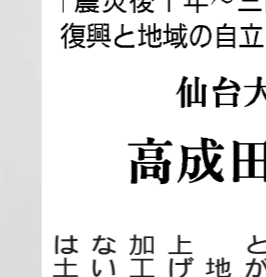
2011年度の第三次補正予算で東北の被災地を中心にグリーンニューデール基金840億円を盛り込んだ。同基金は被災地以外の全国で展開するため、基金で121億円を計上している。公共施設や民間施設で防災拠点に成りうる施設に再生可能エネルギーを導入していた



加藤 庸之 氏

漁業の6次産業化重要

私は昨年の2月18日、朝日新聞石巻支局長を3年間務めてきた。その任務を終えて数週間後に、東北大震災が起きた。石巻には多くの友人、知人がいるのでその復旧を手助けしたいと思い、政府の復興構想会議、復興ビジョンにかかわり、宮城県では漁船2万隻、気仙沼、石巻、塩竈などという気持ちになっている人が多い。



高成田 亨 氏

「震災後1年～三陸の水産業の復興・復興と地域への自立・活性化への道筋～」

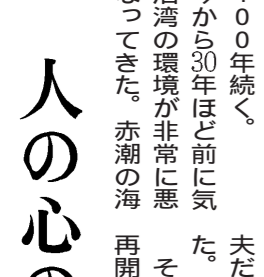
現在、漁業者は放射能のことを不安に思っている。水産庁の方に聞いていられなかったり、水産加工施設の復興の遅れで水揚げできなかったりしたことが要因としてある。特定魚種は高い数値が出ている。理由はわからない。理由は、漁業者の未来を考えた場合、生活や事業の基盤が不安定な状況にあるので、漁業に加工や販売などを取り入れた、6次産業化が重要だと思える。また、洋上の風力発電を漁協と電力会社が組んで実施するような発想で行えば、水産業が安定するのではないだろうか。



島山 重篤 氏

「フォレストヒーローズへの道」 NPO森の恋人理事長／NPOものづくり生命文明機構理事 島山 重篤氏

冬が近づき息子がカキの様子をみると尋常でなくいと言った。多くの人の協力や支援で多くが整った。津波で人工的な構築物は全部やられたが海に流れ込んでいた川、上流の森林は何も変わっていない。森と川と海がきちんとつながっている。2011年は「国際森林年」で、国連が民間で森林保全に貢献している5人を「フォレストヒーローズ」として選出した。私はアジア代表として今年1月に内定をいただいた。2月に初めてニューヨークに行った。他の4人は森林破壊と戦ってきた人たちが多かった。現地で森林には3種類あることを話した。山の森林、植物プランクトンや藻類などの海の森林。東日本大震災による津波で、1カ月前ほど前から生き物がまったく消えていた。4月中旬に小魚の群れがあちこち見え始めた。複数の海の専門家が調査した結果、海は大丈夫だといことがわかった。それからカキの養殖の海が非常に悪くなってきた。赤潮の海が100年続くと。世界に通じると思った。



島山 重篤 氏

パネルディスカッション

「いのちの原点に立ち返り、心とくらしを大切に東北地方の地域づくり」

石田 モノをつくることと我々が満足すること、果たして両立するのかもしれないことをずっと考えてきた。新しいテクノロジーの力や手を明らかにしたいと思っている。現代文明は命の原点を見失い、便利で快適な生活を追求してきている。しかし、東北地方は命の原点が色濃く残っており、震災から2010年に向けて、我々はソリユーションを提案しなければいけないと思っ



石田 氏

谷口 従来技術でできた四つを提案したい。一つは小水力を活用した水系水力発電システム。二つ目は鉄塔を活用した風力、太陽光発電の仕組みあり。鉄塔には送電線があるので、これは何かか。三つ目は東北地域の資源として有力な食文化を生かした取り活用。最後に、全国で約2000社の現場を見てきた。ほとんどがモノづくりの中小企業だ。東日本大震災でも現場で、地域や現場で活躍している人が一緒に参画する「エコビレッジフォーラム」を考えている。「復興支援メデアラ隊」をつくり被災地に入った。被災者の目と耳になり、さらに口を動かして活動している。行政の思考のスタイルを変えたい。地域から学ばないで、行政の大きな教訓として、行政の動きを具体的な方向に切っていくように思っ



中井 氏



前田 氏



吉澤 氏

自然エネ・地下有効活用… 食の自立・循環拠点 提案

中井 1985年に大蔵省に入省して25年あまり、その後、環境省や農水省に異動して、循環型社会の推進に携わってきた。昨年7月に環境省に移り、広域が絡む処理の問題や放射能汚染、再生可能エネルギーの問題などに取り組んでいるが、現場、地域レベルでやることを考えている。石田 テクノロジーの新しい形をつくるため、自然のすごさを賢く生かす「ネイチャーテクノロジー」を提唱している。2030年の厳しい環境制約の中で、心豊かに生きるための絵を描き、必要なテクノロジーを自然の中に探す。これまでの研究や調査を通じて、あるべき姿を明らかにしたい。被災地では、我々が心配している。被災地を取り組んでいく。そこがコミュニティが成り立つようなテクノロジーなど新しい可能性が見えている。

人の心の中に森林を

特別基調講演 気仙沼でカキの養殖を続けてきた。私は2代目で3代目の息子が後を継いでいる。4代目の孫が後を継ぐ。海は大丈夫だといことがわかった。それからカキの養殖の海が非常に悪くなってきた。赤潮の海が100年続くと。世界に通じると思った。